第1学年	数学科	使用 教材等	教科書（未来へひろがる数学1・啓林館）・よくわかる数学の学習2（明治図書） 計算のトレーニング80（新学社）・紙ファイル	担当 教員	五十嵐　大将

【学習の目標】
・目的に応じて計算したり、式を変形したりする力を伸ばすとともに、式を効率的に活用できる。
・身の回りの具体的な事象を調べることで、関数関係を見いだしたり、表現する力を伸ばせる。
・図形の性質の考察や計量に用いる力を伸ばすとともに、図形について見通しを持って論理的に表現できる。

【授業のポイント】
・授業中は私語をせず、集中して臨む。
・挙手や発表は積極的に行う。
・日々の授業の振り返りを実施する。
・学び合い学習を積極的に取り入れる。
・忘れ物がないように授業の準備は休み時間に済ませておく。

【家庭学習のポイント】
・計算問題などは、繰り返し反復演習を行い、必ず途中式をきちんと書けるようにしておきましょう。
・出された課題は必ずやりきりましょう。
・家庭学習を習慣化し、予習・復習を行いましょう。

【評価の方法】

評価の観点	評価のポイント	
知識・技能	・授業態度 ・ノート ・定期テスト	・小テスト ・宿題プリントなどの提出物
思考・判断・表現	・授業態度 ・ノート ・定期テスト	・宿題プリントなどの提出物 ・小テスト ・レポートなど
主体的に学習に取り組む態度	・授業態度や発言 ・ノート ・問題集	・宿題プリントなどの提出物

【1年間の授業計画】

学期	単元	学習する内容	ここで付けたい力
1学期	正の数、負の数 文字と式	正の数・負の数	・正の数と負の数の必要性と意味を理解することができる。
		正の数・負の数の計算	・正の数と負の数の四則計算をすることができる。
		正の数・負の数の利用	・具体的な場面で正の数と負の数を用いて表したり処理したりすることができる。 ・数の集合と四則計算の可能性を理解することができる。 ・正の数と負の数を具体的な場面で活用することができる。 ・算数で学習した数の四則計算と関連付けて、正の数と負の数の四則計算の方法を考察し表現することができる。
		素数の積	・自然数を素数の積として表すことができる。
		文字を使った式	・文字を用いることの必要性と意味を理解することができる。 ・文字を用いた式における積と商の表し方を理解することができる。
		文字式の計算	・簡単な一次式の加法と減法の計算をすることができる。 ・数量の関係や法則などを文字を用いた等式や不等式に表すことができることを理解し、文字式を用いて表したり、文字式を読み取ったりすることができる。 ・具体的な場面と関連づけて、一次式の加法と減法の計算の方法を考察し表現することができる。
2学期	1次方程式	方程式	・方程式の必要性と意味及び方程式の中の文字や解の意味を理解することができる。 ・簡単な方程式、比例式を解くことができる。 ・等式の性質を基にして、方程式を解く方法を考察し、表現できる。
		方程式の利用	・方程式、比例式を具体的な場面で活用することができる。

学期	単元	学習する内容	ここで付けたい力
2学期	変化と対応	関数 比例・反比例	・関数の意味を理解することができる。 ・比例、反比例について理解することができる。 ・座標について理解することができる。 ・比例，反比例の関係を表，式，グラフに表すことができる。 ・比例、反比例として捉えられる2つの数量について、表、式、グラフを用いて調べ、それらの変化や対応の特徴を見いだすことができる。
		比例・反比例の利用	・比例、反比例を用いて具体的な事象を捉え考察し表現することができる。
	平面図形	直線と図形 移動と作図	・点と直線、円と直線の位置関係を理解することができる。 ・平行移動、対称移動及び回転移動について理解することができる。 ・角の二等分線、線分の垂直二等分線、垂線などの基本的な作図の方法を理解することができる。 ・図形の移動に着目し、2つの図形の関係について考察し表現できる。 ・図形の性質に着目し、基本的な作図の方法を考察し表現できる。
		円とおうぎ形	・おうぎ形の弧の長さと面積を求めることができる。 ・図形の移動や基本的な作図を具体的な場面で活用することができる。
3学期	空間図形	立体と空間図形	・空間における直線や平面の位置関係を理解することができる。 ・立体を線分や平面図形の運動によって構成されるものと捉えたり、立体を表面上に表現して、平面上の表現から立体の性質を見いだしたりすることができる。
		立体の体積と表面積	・基本的な柱体や錐体、球の表面積と体積を求めることができる。 ・立体の体積や表面積の求め方を考察し表現することができる。
	データの活用	ヒストグラムと相対度数	・ヒストグラムや相対度数の必要性と意味を理解することができる。 ・コンピュータなどの情報手段を用いるなどしてデータを表やグラフに整理することができる。
		データにもとづく確率	・多数の観察や多数回の試行によって得られる確率の必要性と意味を理解することができる。 ・目的に応じてデータを収集して分析し、そのデータの分布の傾向を読み取り、批判的に考察し判断することができる。

＊定期テストの予定　　5月下旬、7月上旬、10月上旬、11月下旬、3月上旬の計5回実施